

読んだ本

(絵 東山魁夷文・構成 松本猛 監修 東山すみ) 講談社

「白い馬」

つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校六年

中村 結芽

なかむら

ゆめ

この本は、やりたいたいことが分らない少年と、不思議な白い馬が色々な景色を見に空へ舞い上がり、冒険をします。そして、冒険で様々な景色を見た少年が大人になり、何をしているのかも描かれています。

なぜ「白い馬」を選んだかというところ、馬が大好きでタイトルにひかれたこと、表紙がきれいで初めてこの本を見たときから内容が気に入ったこと、二つの理由があります。さらに、読みやすいページ数だったことから、みなさんにも読んでもらいたいと思いました。私の心に残った場面は、冒険が終わった白い馬と少年の別れの場面です。その中でも、夜空から響いてきた声が告げた、

「きみはもう一人で歩ける。わたしは、いつだってきみの心の中にいる。」

の言葉が素敵だなと思いました。その言葉を私は、

「一人でもできる。ただ支えてくれる人はたくさんいる。」

という様に言いかえました。それは、私の目標を支えてくれる人がたくさんいることを感じただけばかりだったからです。

「一人じゃない」

の一言は私を安心させてくれます。この本はたくさんさんの場所や、さし絵が登場するので、ぜひ読んで自分なりのお気に入りの場面を見つけてみてください。

私は、この本を読んで、ますます馬と絵、山、湖、森などの自然が好きになりました。さらに、自分の将来をどう目指していくかなども考えることができました。

この本を読む機会があったら、みなさんもぜひ読んでみてください。